

## あ と が き

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応に多くの時間を割かれたとは思いますが、少しずつコロナ以前の学校生活を取り戻している実感もあったのではないのでしょうか。本研究所におきましても、日々試行錯誤の研究・研修ではありましたが、2月15日には、守山市民ホールにおいて、コロナ前と同じ形で研究発表大会を開催することができました。研究発表や講演にも多くの先生方にご来場いただいたことを大変うれしく思っております。

その一方で、感染拡大防止の観点から、様々な学習活動に制限がかかることもあり、こどもたちの学びにも少なからず影響を与えているように感じます。そのような中でしたが、一人1台端末が新しい学びの広がりを生み、先進的な取組をすることもできています。それらは、市内各先生方の日々の研鑽によるものと大変感謝しております。

また、本年度の研究成果として、「子どもが主体的に学びに向かう授業づくり実践ハンドブック」を完成させることができました。守山式授業ベーシックステップ「めあて・たんきゅう・ふりかえり(めたふ)」等の実践をわかりやすくまとめたものであり、児童生徒を深い学びに導くための授業づくりにぜひ活用してください。

さらには、「話し合い活動リーフレット」も完成させることができました。主に小学校の学級会を対象にしたものですが、中学校の先生方にもぜひ見ていただきたいと思っております。

今後も、学校園が直面している今日的教育課題の解決を目標に、研究や研修講座を企画し、守山教育のさらなる発展に寄与できるよう引き続き努力してまいります。本研究所の研究成果が、本市教育実践の一助となれば幸いです。これからも、多くの方々のご助言をいただく中で、充実した研究・研修に尽力していきたいと考えますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年度の研究におきまして、指導講師としてご協力いただきました、滋賀短期大学教授 久米 央也 先生、滋賀大学教授 岸本 実 先生をはじめ、研修講座や教育研究発表大会でお世話になりました多くの先生方に、心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

守山市教育研究所 所長補佐 寺井 信義